

令和7年度 第3回新城市地域公共交通会議 会議録

1 開催日時

令和7年12月22日（月）午後3時から

2 開催場所

新城市役所4回4-2, 4-3会議室

3 委員（22名中18名出席）

所 属 等	氏 名	備 考
新城市長	下江 洋行	会長
名古屋大学大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター教授	加藤 博和	（副会長）
公益社団法人愛知県バス協会専務理事	小林 裕之	欠席
豊鉄バス株式会社常務取締役	綿貫 琢也	
豊鉄タクシー株式会社取締役社長	鈴木 英司	
東栄タクシー有限会社代表取締役	原田 拓巳	
東海旅客鉄道株式会社東海鉄道事業本部 管理部企画課 課長代理	井上 雅隆	欠席
ジェイアールバス関東(株)	吉川 央紀	
新城市社会福祉協議会 会長	森田 尚登	
山吉田ふれあい交通運営協議会 会長	肥田 芳博	
千郷地域の足の確保検討委員会 委員長	浅井 泰博	（監事）
八名地域の交通を考える会 会長	加藤久美子	座長
山吉田地域の交通を考える会 会長	石野 里美	
東郷地域自治区の足を考える会	市村 照代	
作手地区代表	齋藤 純子	（監事）
中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官	原田光一郎	
豊橋鉄道労働組合中央副執行委員長	河合 公紀	欠席
愛知県都市整備局交通対策課 担当課長	石屋 義道	代理 主事 伊藤智哉
愛知県新城警察署交通 課長	大脇 猛	欠席
愛知県新城設楽建設事務所 維持管理課長	田中 康雄	
愛知県東三河総局新城設楽振興事務所長	長谷川勝春	
一般社団法人新城市観光協会 事務局長	横山 和典	

4 会議次第

別紙次第のとおり

5 会議の結果

【会長挨拶】

本日は、年末の大変お忙しい時期にもかかわらず、令和7年度第3回新城市地域公共交通会議にご出席くださいまして、誠にありがとうございます。

また、委員の皆様におかれましては、日頃より市内の皆さんの利便性に資する公共交通のあり方についてお力添えをいただいておりますことに厚くお礼を申し上げます。

さて、まず初めに今日はうれしい報告ではありますが、こちらに表彰状と盾がございます。

前回の会議のときにも触れたわけですが、公共交通優良団体としまして本会議は、国土交通大臣表彰にノミネートされているということで報告をしたところでありますが、このたび、正式に受賞が決定し、先日、行われました表彰式に副会長の加藤先生と座長の加藤さんが表彰を拝受して参りました。

この長年にわたる公共交通会議の働きに対して地域の皆様、そして交通事業者様、そして、学識経験者をはじめとする委員皆様方が努力をし、積み重ねてこられた協働の成果が高く評価されたものがあります。改めてここにいらっしゃるすべての皆様と、ご協力いただきました市民の皆さんに心より感謝申し上げます。

次回の記者懇談会では、この1年を振り返り、新城市の10大ニュースを発表しますが、まずはこの交通関係優良団体として国土交通大臣表彰されたことを取り上げたいと思っております。

また、3月にはJ R飯田線と豊鉄バスさんに交通系ICカードが導入されました。大きく交通の利便性が向上した今年は節目の年であったなというふうに実感をしているところであります。

ICカードの導入と国土交通大臣表彰の2つの出来事は、今年の公共交通分野の大きなトピックでありますので、10大ニュースとして報告し、市民の皆さんに共有するとともに喜びを分かち合いたいなというふうに思っております。

これからこの受賞を励みとしまして、今後も、安心して移動ができ、住み続けられる新城市を実現するため、皆様とともに努力を重ねて参りたいというふうに思いますのでよろしくお願いします。

本日は協議事項4件と報告事項1件がございます。

皆様方の活発なご議論をお願い申し上げまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【副会長あいさつ】

名古屋大学の加藤です。所用がありまして14時57分着の飯田線で到着したので少し遅れました。

今お話しのありました大臣表彰について、団体が8つあったのは複数で受賞したことがあるので8団体となっておりますが、毎年5団体程度が表彰されます。

新城の場合はやはり山の湊号は本当に画期的といえる。山の湊号ができたことで、高速バスに対する国交省の補助の道が開かれたと思います。これは本当に大事なことです。

高速バスは、これまでも実際に高校への通学であるとか、病院へ行くとかそういったことに使っているところもありましたが、高速バスだから駄目という風になっていたのが可能になったということがとても大きい。実際にどんどん利用も増えているということもあります。それから田口新城線も画

期的なことを言われたと思いますけど、その前に作手線の取り組みがあったのであれで作手線はちょっと今まずい状況になってしまいましたけれど、それでも、地域を守るための交通として機能するために一体何が必要かということを示したということ、思えば非常にそこも大事なところですよ。

あとタクシーが一時期ゼロになるほどの危機がありましたけれど、それを皆さんのご協力をいただいてカバーできたということもあります。いろんなことを新城は乗り越えて、市民の皆さんから見ると、あまり実感としては何がメインになったのかなと思われる方もいるかもしれませんが、ここまでできたのはすごく皆さんが頑張られたおかげだと思っているし、自分はこちらの会場にも行きましたけれど、そういうふうみんな頑張ってよかったなと思って見ておりました。

自分としてはまだ十分じゃないと思っているので、もう十分だと思ったら今日来なくてよかったのですけれど。自分の中で十分と思っていないので、やることがあると思っています。引き続き皆さんと、取り組んでいければと思います。

今日の議論も、また先へ進むための議論になると思いますのでぜひ、皆さんもどんどん発言していただき、私もそれに応じてアドバイス等できたらと思っていますのでよろしくお願いいたします。

5 議事録

協議事項1 令和7年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について 事務局より説明←委員全員より承認（主な議論は下記のとおり）

委員：ちさと線の目標設定について。達成状況が目標の半分以下になっている。検討会としても利用者増を目指していますが、なかなかハードルが高い。人口減少、高齢化等を考慮して、実態に見合った目標設定について、ご意見やご一考いただきたい。

事務局：目標値は、令和2年ごろコロナの影響で利用者が落ちた。それを元の状況まで戻すことを目指している。ちさと線について、予約が利用のハードルになっている部分はある。実際に利用者してみた方は簡単だったという意見もあった。目標設定とか、施策について、本日の協議でもあるのでそちらで議論していただけるとありがたい。

委員：デマンドに移行すると予約が面倒になって利用者は必ず減ります。ちさと線の人数だと1日4～5人が乗っている。タクシーの方が良いとなってしまう。下がらないようにどうすればよいかを地域で考えてほしい。国の補助の対象になっているなら、なおさらもっと上を目指しても良い。決して高い数字ではないことをご理解いただきたい。厳しいことを言っているが、委員として、役に立つのでしたら、地域を支援することも可能なので、困っていたら呼んでほしい。

委員：作手線について、減少している理由は。

事務局：作手線は、新城の有教館高校への通学や、作手校舎への通学利用が多い路線。利用実績については、有教館高校作手校舎の生徒数は、7年度の入学者が定員割れとなっており、生徒数一人が年間で400回近く乗ってくれるので、生徒数が減った分が結果に反映されてしまっていると考えます。

委員：塩瀬線こそデマンドへの移行を考えてもいいのかなと思います。通学がメインの利用なので、通学する児童が減ると定時運行自体がナンセンスになってくる。遠いのでタクシーにも頼ることができない。それこそ海老連谷線のように移行していくことを考えていかなければいけない。あと、もつくる新城線は、観光利用がメインですか。まだまだポテンシャルのある路線だと思っている。乗り継ぎ等はしっかり周知されているのか。

委事務局：塩瀬線については、その通りだと思っている。この後、東郷線の協議があるが、東郷線と塩瀬線が、追分で接続している。東郷線が変わることでそこも見直さなければいけないので、考えていく予定である。

もつくる新城線は、山の湊号で新城を訪れる名古屋圏の方の足の確保のために見直しにより生み出した路線である。JRとの乗り継ぎも考えていかなければいけないと思っている。

委員：観光協会へ鳳来寺山への問い合わせは多い。中でも、山頂から表参道までつなぐバスはないかと聞かれることが多く、間違えて山頂駐車場に車を置いて、石段を下りてしまった人もいる。あと、観光客は土日に来るので、日曜日に運行しているとありがたいと思う。

委員：タクシーの営業区域を鳳来地区に広げさせていただいているが、少ないがタクシーの利用の依頼はある。利用頻度は月に2〜3回。湯谷温泉からの依頼が多い。今後も、利用が増えるように事務局と一緒に考えていきたいと思っている。

委員：説明の中で作手地域について触れていたが、作手地域の動きは現状で何かありますか。

委員：作手校舎がなくなるということで、地域の危機感が高まってきて、作手線がいつまであるのかとか、作手地内のデマンド区域が新城までつなぐことができるのかとかいろいろな意見があったり、まだまだ車で動いている高齢者の方も多かったり、バスの利用を広めようということでやっと地域で組織が立ち上がったところです。地域でアンケートをとって、順番にお試し乗車など、活動をしていきたいと思っているところです。

作手地域では、お城巡りの人気で古宮城への来訪者が多い。途切れることなくずっと観光客が来ている。そういった歴史好きな方へ資料館や保存館、鳳来方面へもバスで行けるふうにはできないかと地域でも思っている。つくで交流館でラジオ体操、児童クラブ、夏休みのプールにバスをつかってみましょう、ということを企画したらなかなか好評だった。こういう活動をちょっとずつやっていきたい。

協議事項2 新城市地域公共交通計画の見直しについて

事務局より説明←委員全員より承認（主な議論は下記のとおり）

事務局：今回は、計画の見直しについて、皆さんに議論をいただきたい。次回会議で、改訂についての協議として挙げていきたいと思っている。

委員：令和8年度以降の展開として、地域貢献としての運転業務の住民ドライバー制度とありましたが、

免許の要件はあるか。

事務局：豊鉄バス、豊鉄タクシーの路線は、4条許可路線で2種免許が必要になる。今は、各社で免許取得費用の助成等の制度がある。鳳来、作手については、自家用有償旅客運送で国土交通大臣の認定講習の受講または2種免許の取得が条件。いろいろなところで運転手不足が起こっているのも、今後どうしていくかは制度化も含めて考えていきたいと思っている。

委員：タクシーについて、12月に運賃改定を行った。新城エリアでは、運賃改定をするとそのたびに利用状況が悪化する傾向がある。タクシーを今後も維持するためにも、運転手不足の問題も含めて今後何かできることを皆さんのお知恵を借りながら探していきたいと思っている。

委員：最近入社される方も普通免許は持っている方で、50代60代の方も大型免許、2種免許を取得して、現在安全に運行していただいている。今後もこういった方が増えるといいなと思っている。

委員：タクシー運転手の不足は今後も厳しい状況が続くと思う。労働時間の規制の面からも、なかなか兼業というのが難しい職種。新たな取り組みとして良いと思うが、緑ナンバー、白ナンバーの運転手の兼務について、こういった形で動かすのか分かる範囲で教えてほしい。

委員：輸送の安全が一番大事であるため、いろいろな規制がかかっている。今、明確に提示できるものはないが、そういったところも検討していかなければならないと思っている。

委員：作手線については、高校が無くなったから作手に来る高校生はいなくなりますが、作手から新城、市外に行く高校生はまだいる。移住定住と一緒に作手に住んでも高校がいろいろと選択できるということをアピールすることが大事。あと、鳳来総合支所と本長篠バスターミナルの順番。飯田線から乗り換えができない便がある。本長篠駅前の改良により駅前が少し広がる。バスの小型も伴えば、乗り入れも検討できる。新城駅もそうだが、電車を降りてから、バス乗り場への案内がない。案内もなく駅前に乗り入れもできないのはすごく弱点なので、ずっとやっていただきたいと思っている。

あと、計画に観光に関する記載がないが、飯田線、高速バスで来た人に鳳来寺山やさつき話の合ったお城など、こうして行けるというのを案内する。そのためには、Sバスや田口新城線の変更が必要かもしれないし、観光面で考えたらまだまだポテンシャルがあると思っているのでそういったところも考えてもらえると良い。

事務局：話があったことはすべてやりたいと思っている。公共交通担当だけでやるのにも限界があるので、観光、それぞれ運行事業者等ここにいるみなさんと一緒に提案しあってできることをやっていく、それが広がっていくといいと思っている。

協議事項3 交通空白地有償旅客運送事業者協力型自家用有償旅客運送の更新及び指定乗降場所の新設について

事務局より説明←委員全員より承認（主な議論は下記のとおり）

委員：地元から、浜松市への乗り入れは、ずっと要望としていただいていた内容であるので、ぜひ実現したいと思っているのでよろしくお願いします。

委員：山吉田ふれあい交通は、区からも補助金をもらっているが、やはり市の応援がないと、なかなか継続できない。先日の会議のときに、市役所の方からこういう笑顔と活気のある会でいいですねって最後言われたときに、運転手がいつも配車の関係で月に1回集まっているが、みんながボランティア精神を持って、安い報酬で、よくやってくれていると思う。地域に貢献していると思うと、やはりこれは続けていかなければいけないという気持ちだが、私自身にも高まってきていて、住民が考えて住民が育てているということを思っていますので、是非とも応援をしていただきたい。

協議事項4 Sバス東郷線の運行見直しについて

事務局より説明←委員全員より承認（主な議論は下記のとおり）

委員：資料をみるとすごく複雑な感じに見えるので、もう見ただけで、受け付けない方とかいるとおもうので、そういう方に覚えれば簡単だということ、使うとここにいくことができるということをしっかり周知してください。

事務局：東郷地区の足を考える会とも話し合っているが、行政区ごとに希望があればさらに小さい単位でも説明会をひらくようにする予定。地区ごとにここに乗降場所があって、ここに行けるというのを説明するのが良いと思っている。2月～3月にかけて実施予定。

委員：路線定期運行からデマンド運行に移行することを見てきた経験談としては、まず病院に行く方の利用が多い。利用者は午前中に集中する。そうすると、希望の時間に予約が取れないとか出てくるかもしれない。また、予約受付の方との意見交換をするといいと思う。利用者の傾向や運用してみてもの見直しや改善について積み重ねていく。

報告事項

- (1) Sバス・田口新城線無料乗車デーの実績報告について

会議終了 17:30